

川崎地域連合田島地区連合

2025 年度に向けた「政策・制度要求」回答

1. 出産時の無痛分娩の標準化＜新規＞

自然分娩時の精神的・体力的なダメージが大きく回復に時間を要する。無痛分娩を希望はするものの費用面での負担が大きく一定数はあきらめているのではないかと考えている。ダメージが緩和される事で家族の負担（ケア）も緩和されることから、無痛分娩の標準化の検討をお願いしたい。

こども未来局回答

妊娠、出産、産後の時期に切れ目のない支援をしていくことは、子どもを安心して産み育てられる環境づくりを進める上で大変重要であると考えており、本市でも、各時期に対応した支援をさまざまな機関で行っているところでございます。今後につきましても、関係機関と連携して出産に関する適切な情報を収集し、産後ケア事業など、産後に御利用いただける事業と併せて、市民に対し周知してまいります。

2. 川崎市ふれあいフリーパスの運用改善＜継続＞

知的障がい者で障害手帳の区分 B2 で働いている方は利用できず、障害者手帳を所持している人が全員一律に補助を受けられる制度を要望する。また、就労者は会社から通勤手当や半額負担としているが、徒歩通勤者、個人での半額負担者は自分で生活費を支払う中で、バス料金の支払いを負担に感じており、障がい者の方が同じ負担額でのフリーパスが利用できるよう運用の検討をお願いしたい。

健康福祉局回答

「バス乗車券交付事業」は、障害者の社会的活動を促進し障害者の福祉の増進を図ることを目的として、障害者手帳をお持ちの方に市内の路線バスを無料で利用できるふれあいフリーパスを交付するものです。軽度の身体障害者及び知的障害者につきましては、就業している方は就業先から交通費の支給を受けていることやバス運賃の半額割引制度が利用できることからフリーパスの交付対象外としておりますが、社会福祉施設等に通所されている方につきましては、社会参加の促進の必要性から交付対象としているものでございます。今後につきましては、障害者団体からの御意見などを踏まえ、障害者本人の移動手段確保という制度の目的や適正実施、持続可能性、他都市の状況等も加味しながら、引き続き検討してまいりたいと考えております。

3. アップガレージホイールズ川崎産業道路店前、武蔵白石駅踏切周辺の排水設備の清掃・整備＜新規＞

雨が降ると毎度冠水が発生しており、水たまりを避けて通勤しなければならず、車道や店の敷地内を通らざるをえなく危険が状況にある。早急な排水の改善をいただきたい。

また、排水口を定期的に確認し、清掃や排水方法の見直しも併せて検討をお願いしたい。

道路公園センター回答

要請箇所について現地確認いたしましたので、水たまりの解消に向けた対策を検討してまいります。

4. 小田栄バス停の屋根の変更について＜新規＞

小田栄バス停について、現状は屋根のみのバス停となっており、風の強い日などは濡れながら待たざるを得ない状況にある。至近において新しい建物も完成し、風が発生しやすい状況となっており、壁付きタイプのバス停への変更をお願いしたい。

交通局回答

既存のバス停留所上屋を壁付きタイプへ変更することは構造上難しい状況です。

また、市バス管理のバス停留所の上屋を新規設置するためには、「道路占有許可基準」に定める、設置後の歩道の有効幅員が2メートル以上確保できること等を満たすことが必要であり、壁付きタイプの上屋設置は、歩道有効幅員を狭めることとなり、当該バス停留所につきましては、設置後の歩道の有効幅員を2メートル確保することができないことから設置は難しい状況です。

5. 鋼管病院前のバス停への屋根の設置＜継続＞

臨港バス『鋼管病院前』バス停は、川崎駅から到着する側のバス停に屋根が設置されていない。当該箇所は、鋼管病院で診察を終えた方の利用も多く、雨天時等は雨に濡れることにより体調悪化の懸念も考えられる。加えて、川崎駅へ向かう側のバス停で雨宿りしている方が、バスの到着時に慌てて道路を横断し、転倒して怪我をする事例も発生している。

また、雨天時は、バス停利用者が背後のマンションの敷地内で雨宿りするなど、防犯上の課題にもなっている。引き続き、川崎市・バス事業者連絡会議の場などを通じ、バス事業者に対して要望を伝えていただくとともに、バス停を利用されている住民の声も多く寄せられていることから屋根の設置に向けた検討をお願いしたい。

まちづくり局回答

本件の御要望につきましては、貴重な御意見として、川崎市・バス事業者連絡会議の場などを通じ、引き続き、バス事業者へお伝えしてまいります。

6. カサアイント`サイトの正面玄関付近への横断歩道の設置と歩道柵の一部撤去＜新規＞

カサアイント`サイト（川崎区小田栄 2 2 2 ）正面の歩道から反対側の歩道に渡る際、既設の横断歩道が約 200 m 離れた位置にあり、利便性に欠ける。そうした道路事情から反対側の歩道に渡る際、多くの通行者が横断歩道のない場所を横断することに加え、横断先の歩道柵を跨ぐ事象も多く見受けられる。

なお、カサアイント`サイトには 1,000 名程居住しており、当該の道路に対し、安全面と利便性の観点で改善を求める声が多く上がっている状況である。

道路公園センター回答

要請箇所について現地確認を行いました。横断歩道の設置については交通管理者である警察の所管となりますので、要請内容をお伝えしてまいります。なお、歩道柵の一部撤去につきましては、乱横断による事故を防止するために設置していることから、横断歩道の設置と併せて形状変更を検討することとなりますので、御理解いただきますようお願いいたします。